



## “神戸の暴れ猿”が“夏”に照準を合わせたシングル2曲を2ヶ月連続ドロップ!!

w-shun (Vo) dEnkA (Gt) 亜太 (Ba) ナオミチ (Dr)  
インタビュー：村岡 俊介 (DJ ムラオカ)

ー「Wonderful Life」、「IGreed」で2ヶ月連続シングルをリリースしますが、シングルが売れない今の時代、かなり攻めてるなと感じたのですが、そこに至った経緯を教えてください。

w-shun: そもそも夏にシングルを出そうという話だったんです。アルバムの発売前でしたね。

亜太: そうですね。アルバムのツアー前にレコーディング終わってましたから。w-shun: 今回の作品に関しては“夏”というイメージがまず頭にあって、自分たちの思い描くいろんな夏を鳴らしてみようという感覚で作ったんですよね。そこが今までとちょっと違うというか。自分たちの大きな引き出しからシングルに合うものを探すじゃなくて、“夏”というテーマがまずあった上でそのテーマに向かってニュアンスの異なる夏を鳴らしてみました。デモの段階で良い曲がいくつかあったんで、どれが1番良いかって話してる時に、僕ら的には「Greed」がいいなって思ったんですけど、まわりのスタッフから「Wonderful Life」の方がメロディがシングル向きなんじゃないかと言われて、それなら“もう両方出しちゃおうか!”って、無茶した方が復讐しい(笑)。1つのシングルにその2曲を入れて両A面にするより、7月、8月という真夏に連続で出して“俺らの夏です!”って宣言した方が分かりやすいかなと思って。

ーまずは7月23日リリースの「Wonderful Life」ですが、正に“夏”というイメージに相応しい、KOMらしい底抜けに楽しいアッパーな曲に仕上がってますよね。ロック・シーン、ライブハウス・シーンどちらにも突き刺さる楽曲だと思いました。皆さんからみていかがですか？

ナオミチ: 最初この曲はAメロのラウドな部分がなかったんです。ずっとポップな感じで重いパートはなくて。だけどやっぱりアクを出したくて、普通じや終わりたいじゃないかねって、Aメロでドラップを入れたんです。w-shun: 基本のビートに関しては今まで自分たちの曲にもありました。が、やっぱりライブで盛り上がるんですよ。そういう曲に対して、今まではライブで盛り上がることにしか考えてなくて、メロディも歌詞もシングルを意識してやってみるって意外とやってなかったんですよ。それでシングルを意識して作り始めたんですが、最初にできたものに対してつまらないって思って。“深く考えてないやろコイツら”って曲があったものいいなと思ってラブなものをに入れていったんです。夏に遊んでる時に深く考えこんでる人もいないだろうし、底抜けなパーティー感のある曲が1曲くらいあっていいのかなって。

ーシングルを意識したというのはメロディ・ラインの部分ですか？

w-shun: いや、メロディは割りと早い段階ででき上がってたんです。シングルを作る時はメロディがこれっていいのを見直す時間を作ってるんですけど、今回に関してはそれが

ほとんどなくて、むしろアレンジの部分でシングルを意識しました。自分たちらしいのか、らしくないのかを突き詰めていったというか、突拍子もないことを今までやってきたんだから、こういう曲もぶっ壊していいんじゃないかなって。

ー他のバンドとは少しシングルへの意識の持ち方が違う様に感じますね。

w-shun: いかに自分たちが面白そうに作ったかって感覚の方が届いて欲しいのかなって気がします。

ーざっおっしやったような、ラブやヘヴィなパートなどいろんな展開を詰め込んで魅せるのがKOMの曲の面白さの1つだと思いますが、その点を突き詰めたのがこの曲のイメージですね。

ナオミチ: 重いところは重い、爽快なところは爽快ってどの表情の部分も振り切ろうと思いましたね。

ースタートのメロウな部分から最後まで展開は想像つかないですね。この曲だけではなく他の曲もKOMは想像つかない展開が多いですね。

w-shun: ヤンチャ感ですね。でも慣れてくるとそういうふうに感じなくなっちゃったけど大丈夫かな(笑)？

dEnkA: “なんだ、まとまってるじゃん!”とか思っちゃいますもんね(笑)。作ってる時は“これ大丈夫か!”って、ハラハラドキドキしてるんですけど、できてから聴いたらまとまってるなって思っ。

ーそれがKOMの良さでもありますよね。複雑なことを複雑に難しく聴かせない。ラウド聴きたてのキッスでも楽しめるし、音楽知識のある人でも楽しめるという。

w-shun: コピーしてみたら意外と難しいっていう(笑)。そういうことの方がやって楽しいですけど、自分たちの曲でこれくらいでできないわ~”っていうのも苦しいです(笑)。でも突き詰めていって、それが手に馴染んで、体に馴染んで成長している実感はありますね。そういうハチャメチャ感がKOMの機軸になっていると思います。

ーレコーディング環境は前作と変わらずですか？

ナオミチ: エンジニアさんは変わりました。ドラム・テックさんも変わりました。「INPUT ∞ OUTPUT」の時は音作りも徹底的にやってんですけど、今回は“この曲は明るいから明るく!”ってノリでバツとやっていった感じですね。

ー前回のレコーディングでは一部の曲でアナログ・レコーディングを行ったり、全曲ドラムのチューニングを変えたりと、職人的なこだわりを随所に感じましたが、今回はそういう部分はなかったのでしょうか？

## 今回の作品に関しては“夏”というイメージがまず頭にあって自分たちの思い描くいろんな夏を鳴らしてみようという感覚で作ったんですよね

dEnkA: いや、ノリだけじゃなく、ちゃんとギターの音とかこだわりましたよ(笑)。アンプを弾き比べたりとか。w-shun: 前回ほど細かいこだわりは追求してないかもしれないですが、そこを越えたところでリノリでやってみるっていう、原点に戻れた感じで、その方が今のバンド的にはいいかなって思います。いろいろ経験したうえで、あえて勢いでオラオラワイワイやる必要があったのかなって。

ーそしてカップリングの「No Ending」はリード・トラック以上にアップ・テンポでヘヴィな曲ですね。

w-shun: この曲は「Paint it Out!!!!」の制作時にはでき上がってた曲なんです。アルバム「INPUT ∞ OUTPUT」に入れるかも悩んでたんですが、ちょっと暗い印象になるからって少し置いてたんです。でも「INPUT ∞ OUTPUT」が完成した後に、アルバムに収録した曲よりしなかった曲を聴いることが多くて、聴けば聴くほどどこか近いタイミングで出したいなって思ってたんです。で、カップリングをどうするか決める時にこの曲を入れようって。「Wonderful Life」とは対照的なものを入れたかったんで、これも自分たちらしくていいんじゃないかなって、ギリギリまでシングル候補として残ってた曲なので、両A面ぐらいの勢いで出したかったんです。

ーKOM流のラウドロックを体現した曲だなぁと思います。

w-shun: そうですね、ヤンキー感というか。

一同: ヤンキー感(笑)!?

w-shun: 男らしいっていうか(笑)。

ー続いて8月20日にリリースされる「Greed」は、テレビ・アニメ「名探偵コナン」のオープニング・テーマに決まっていますが、それを意識した楽曲ですか？

w-shun: リフ自体はもともと4、5年前からあったんです。このリフをどうにかして活かせないかなと思って、今年頭に曲を作った時に、今の知識量でこの曲をもう1回復活させたくなって再び取り掛かったんです。“名探偵コナン”のタイアップのこともあったんで歌詞もゴロっと書けてみんですけど、曲に照してはあまりタイアップは意識してないですね。「Wonderful Life」とはまた別の自分たちの夏の表現の仕方を意識して作ってたんです。タイトル「Greed」も最初に歌詞を書き始めた時にはすでに「Greed」ってタイトルだったんですけど、元々は超シモネタの曲だったんです(笑)。でもコナンのこともあったんで、自分たちが子供の頃から見てるものだから、子供たちの気持ちも分かるし、ここは書き直した方がいいかなと思って、歌録りの日にゴッソと変えたんです。

ー作り直した歌詞はコナンを意識したものだと思いますが、テーマを与えられて歌詞を書くというのはチャレンジだったんじゃないですか？

w-shun: こういうのもできますよ、って提示したかったんです。苦労はしなかったですね。

ー楽曲ももしかしたらコナンを意識したのかなと思ってたんですが。

w-shun: 全くですね。むしろ「Wonderful Life」よりもチャラけた曲の印象が強かったんで、僕の中では「Greed」の方が「Wonderful Life」よりいいんじゃないかなって思ってたんです。曲を作った時にはタイアップの話なんてまだなくて、この曲にしようかってなった時にサッぱはい曲が自分たちの作ってきた曲の中になかったんで、新しいチャレンジはあるし、良い意味で自分たちらしいぶげれた夏って感じて、これがいいんじゃないかなって。

ー楽曲もハードでありながら、コミカルな部分もあり、すごく大衆性が高いと感じました。KOMの入り口になりそうな曲ですね。ところで「Wonderful Life」のMVは赤い公園やアルカラのMVも手がけた田辺淳伸さんが監督だそうですが撮影はいかがでしたか？

w-shun: 現場はすごく楽しかったですよ。エキストラに30人くらい入ってもらって、“Wonderful Life”ってタイトル通して夏に思いっきり遊んで楽しんでおパーティー感を出すってコンセプトだったんですけど、ここまで大人数のエキストラと一緒に撮影したことなかったんで、ワイワイしてましたね(笑)。

ー屋外での撮影ということですが、まだ少し寒かったんじゃないかなってですか？

dEnkA: ちょっと寒かったんですけど日焼けて、まだ皮がむけます(笑)。w-shun: 水着のお姉ちゃんもいたけど寒そうだったなぁ(笑)。あとスケーターとかBMXもあって、すごいイケイケでしたね。

ー田辺さんのMVはあまりそういうイメージがないので、楽しかったです。

亜太: カメラ持って監督自ら走り回ってイケイケでしたよ(笑)。こんな人もいるんやって思った。w-shun: ノリのいい人でしたよね。

ー「Greed」のカップリングの「Only」はキャッチーなバラド曲ですね。レゲエ・テイストもKOMらしいですね。

w-shun: 僕個人としてはこの「Only」を作ってる時が1番ワクワクしてたんですけど、

2ヶ月連続リリースで2曲ずつ計4曲で締める最後の曲なわけじゃないですか。それと同時に8月のリリースでもあるので、夏が終わっていき切なさを書きたかったんです。あとここ1、2年はレゲエのニュアンスを出した曲もほとんどなかったんで、レゲエでミドル・チューンの曲がないのでそういう切ないのをやりたくて。SUBLINEとかもう1回聴き直してこういう曲を歌いたいってイメージして作りました。

ーレゲエ・テイストを念頭に置いて作った曲なんですね。

w-shun: “こういうことがやりたい!”っていうのを先に伝えてました。カップリングなんでわりと自由な発想でやれましたね。この曲を夏の終わりに聴いて“ああ、夏が終わっていい!”ってしみりしたいですね。

ー個人的にはヴォーカルやサビのメロディ・ラインにWANDS、T-BOLANといった90年代のJ-ROCKの面影を感じました。カラオケで歌い上げたくなるようなタイプの曲というか。

w-shun: メロディに関してはあまり悩んで作った感じではないですね。結構すんなりできたと思います。自分かともとも日本語の歌謡曲をハンパ聴いてきたので、そういう部分とバンドのやってる音が重なってるのかな……。無意識の部分ではあると思いますね。

ーKOMはラウドロック・シーンから出てきたバンドではありますけど、より一般層に広がっていくきっかけになりうる曲だと思いました。

w-shun: ー聴いて分かってしまうよりは、“この曲いいな”って思ってもらったところから握り下げていくと“なんじゃこのバンドは!?”って驚いてもらえる方が僕は好きなので、オーバークラウドでやることにに対して違和感を感じるとかではなくて、オーバークラウドですら自分たちのものにしてみようバンドになりたいたんで、本当にそのきっかけになるようなものができたらんじゃないかなって思っています。

ー「Greed」と「Only」の組み合わせはすごく良いと思うんですが。KOMを知らない人が「名探偵コナン」のタイアップを理由に「Greed」を聴いてCCDを買っても、2曲目が「Only」であればキャッチーでメロディアスなで感情をツツと入はめると思うんです。これが「Wonderful Life」のカップリングの「No Ending」ですと若干しつこいんじゃないかなと。KOM上級者向けというか(笑)。

一同: 上級者(笑)。

ー本当に良いバランスでこの2枚ができていてるなと感じます。それでは最後にみなさん1人ずつの“ご押し!”というポイントを教えてください。

w-shun: 楽しい時にアレコレ理由を考えないで1番大事なんじゃないかなって思います。そんな何も考えずにファッてしたい時に聴きたい2枚ができたんじゃないかと思います。これからの時期、夏フェスとかキャンプとか旅行とか遊びに行く人も多いでしょうし、そういうシチュエーションにも合ったものができたので、ぜひ季節に合わせて聴いていただけたら嬉しいです。

dEnkA: うわ、言われた!近いくだけだ、とりえずぜひ2枚聴いて聴いて欲しいです。「Wonderful Life」はこれから夏が始まるというワクワク感を感じていただいて、「No Ending」は夏に向けて作った曲ではないですが、夏のワチャワチャ感是非間接的に出てるのでそを感じてもらって、次に「Greed」で夏を遊びまくってる感じを楽しんでもらって、「Only」で夏の終わって少し寂しさを感じてください、という流れで聴いて欲しいです。これがKOMの夏です!

w-shun: おお、いいね!合格!

ナオミチ: 全曲あまり頭を使わず、ユルい時はユルク、はっちゃける曲ははっちゃけて聴いて欲しいです。仕事先とかバイト先で音楽流せるなら7月8月はこの4曲をヘビロテしてくれたらなと思います。

w-shun: うーん、イマイチ!亜太の後ももう1回な!

亜太: 過去の楽曲は“楽しそう”、“かっこよさそう”って感じて聴き始めて、聴き終わる頃には“楽しかった”、“かっこよかった”っていうように気持ちに変化する曲が多いと思うんですが、「Wonderful Life」に関しては“楽しそう”から“楽しい”まで、“かっこよさそう”から“かっこいい”までの距離がすごく短いかなって。スタート・ダッシュが素晴らしい曲だと思うので、まずは「Wonderful Life」から聴いてください。w-shun: 素晴らしいっていうのはナオミチくん、まとめてください!

ナオミチ: とりえずヘビロテしてください(笑)。

一同: 爆笑!

w-shun: 内容薄う~(笑)!

インタビューの続きは  
激ロックウェブサイトをチェック!! >>> **GEKIROCK.COM**



**KNOCK OUT MONKEY**  
Genre: LOUD ROCK, PUNK ROCK  
2014.8.20 ON SALE!!

2ヶ月連続でのシングル・リリース、そして独力だけでパンパを引っ張った斬新なキャンペーンの数々……と、この夏の話題にこと欠かない、正真正銘の夏男、KNOCK OUT MONKEY。彼らの連続リリース・シングル第2弾は、前作に引き続き、これまた一丁が似合うサマー・ロック・ミュージックな、ジャズ系サウンドの、ナンバー・ワン・前作の「Wonderful Life」とはまた違ったアプローチで、人気アニメ「名探偵コナン」のオープニング・テーマにも採用された楽曲曲「Greed」は、夏男の底力のアツク・パンク・ロック・テイスト「Only」は、夏男の底力のエ・パンク・ロック・テイストの引き出しの多さを改めて見せつけられる完成度の高い楽曲に仕上がっている。 山本 真由